



## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月2日

上場会社名 株式会社セルシス 上場取引所 東  
 コード番号 3663 URL https://www.celsys.com  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 成島 啓  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役（氏名） 伊藤 賢（TEL） 03-6258-2904  
 半期報告書提出予定日 2024年8月13日 配当支払開始予定日 2024年9月30日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

## （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	4,060	△4.5	1,105	51.6	1,228	66.9	943	—
2023年12月期中間期	4,253	13.3	729	△24.4	736	△28.2	△92	—

（注）包括利益 2024年12月期中間期 673百万円（—%） 2023年12月期中間期 △104百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	29.43	—
2023年12月期中間期	△2.65	—

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	8,417	5,948	69.6
2023年12月期	8,551	6,660	76.1

（参考）自己資本 2024年12月期中間期 5,855百万円 2023年12月期 6,508百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2024年12月期	—	12.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	12.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

連結業績予想に関する序文

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,723	△4.5	1,655	22.3	1,611	14.7	744	18.8	20.51

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期中間期	36,271,180株	2023年12月期	36,271,180株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	5,021,431株	2023年12月期	3,827,970株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年12月期中間期	32,059,197株	2023年12月期中間期	34,730,083株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(グループ通算制度の適用)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、デジタルコンテンツの制作から流通までをトータル支援できる環境の提供をめざして、イラスト・マンガ・Webtoon・アニメーション制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」の開発・提供を中心とした「コンテンツ制作ソリューション事業」と、コンテンツ流通基盤ソリューション「DC3」及び電子書籍配信ソリューションの開発・提供を中心とした「コンテンツ流通ソリューション事業」の2つの分野で事業を推進しております。

当連結会計年度におきましても、ソフトウェアIPを核とした経営に重点を置き、戦略的な開発投資を継続して行い、企業価値の向上に注力しております。その結果、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は4,060,617千円(前年同期比4.5%減)、営業利益は1,105,106千円(同51.6%増)となりました。なお、前中間連結会計期間には、2023年8月1日付で売却したUI/UX事業の売上高712,025千円が含まれており、利益面に関しては、グループ全体の収支バランスを意識した開発投資の効率化や、コスト見直し施策の実施により、東証プライム市場への上場準備に伴うコストの上昇を補い、前年比増益となっております。

また、経常利益につきましては、営業外収益として為替差益96,564千円を計上したこと等により1,228,885千円(同66.9%増)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、法人税等333,483千円を計上したこと等により943,620千円(前年同期は92,049千円の親会社株主に帰属する中間純損失)となりました。なお、当連結会計年度の計画に対する進捗率は、売上高が52.6%、営業利益が66.8%となっております。

当社は、2024年3月1日から1年間で2,000,000千円分の自己株式の取得を予定しており、その一環として2024年6月3日に開示しました「自己株式の取得状況及び取得終了に関するお知らせ」の通り、999,946千円分(1,202,700株)の自己株式を取得し、残りの1,000,000千円分も期間内に取得する予定です。あわせて、6月7日に開示しました「中間配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」のとおり、2024年12月期の中間配当は1株当たり2円の増配を実施することといたしました。また、2024年8月2日に開示しました「配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」のとおり、期末配当につきましても1株当たり2円の増配を実施することとし、これにより2024年12月期の配当金につきましては、中間配当12円、期末配当12円の合計24円(12円増配)を予想しております。なお、通期業績予想は据え置きますが、下期の事業進捗を注視しつつ修正が必要となった場合はすみやかに開示いたします。

また、2024年2月9日に開示いたしました「資本金及び資本準備金の額の減少に関するお知らせ」の通り、今後の機動的かつ柔軟な資本政策に備えるため資本金及び資本準備金の額の減少につきましては、予定通り2024年4月17日に効力が発生し、資本金の額が10,000千円、資本準備金の額が2,500千円に減少しております。減資により、増加した剰余金を、配当金、自己株式取得、さらなる株主還元施策や今後の資本政策等に活用してまいります。

なお、2024年2月に、AI及びWeb3関連技術の協業関係強化を目的に、株式会社アクセルと資本業務提携をいたしました。本提携により、当社は株式会社アクセルの株式464,800株を914,726千円で取得いたしました。一方、株式会社アクセルは当社株式を市場買付により1,081,000株取得しております。

各社との資本業務提携契約の進捗状況につきまして、WEBTOON Entertainment Inc.及びLINE Digital Frontier株式会社とは、WEBTOONコンテンツ制作の効率向上、AI分野や「DC3」ソリューションの活用等を推進、株式会社ワコムとはクリエイティブ制作に欠かせないワコム製品と連携して多方面に渡って活動、株式会社アクセルとはAI技術の共同開発を実施しております。

なお、LINE Digital Frontier株式会社は、株式会社イーブックイニシアティブジャパンと2024年9月1日付で吸収合併を行い、株式会社イーブックイニシアティブジャパンが保有する当社の全株式がLINE Digital Frontier株式会社に承継され、当社の主要株主となる予定です。

また、現在、東京証券取引所プライム市場への市場区分変更に向けた準備を進めており、東京証券取引所が定めるプライム市場への上場審査における形式要件には2024年6月30日現在で適合しており、コーポレート・ガバナンス強化及び業務提携の強化を目的に、LINE Digital Frontier株式会社の高橋将峰氏が社外取締役、取締役会の多様性の確保に資すること、当社のグローバル化や、企業とのアライアンスの促進等、当社グループの持続的な企業価値向上に力を発揮できる池田真樹氏が女性取締役としてそれぞれ就任しました。

セグメント別の経営成績は、次の通りです。

#### <コンテンツ制作ソリューション事業>

コンテンツ制作ソリューション事業は、グラフィック分野で活動するクリエイターの創作活動をサポートする、イラスト・マンガ・Webtoon・アニメーション制作SaaSサービス及び創作を支援するコミュニティサイトを通じて、コン

コンテンツの制作にまつわるサービスをグローバルに提供しております。

2024年3月に、イラスト・マンガ・Webtoon・アニメーション制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」の機能向上を目的とした開発投資の成果として、「CLIP STUDIO PAINT」バージョン3.0のメジャーバージョンアップをリリースいたしました。あわせて、収益性の向上と継続的なサービス提供を実現することを目的に、「CLIP STUDIO PAINT」のSaaS提供であるサブスクリプション契約価格及び買い切り版の価格を改定いたしました。今後も、サービスの価値向上に応じた価格改定を行ってまいります。

バージョン3.0は、2023年3月に提供を開始したバージョン2.0に続くメジャーバージョンアップであり、最新の機能を利用するためには、買い切りモデルのユーザーもサブスクリプション契約をしていただく、または、新バージョンを優待購入いただく形態としております。バージョン3.0はリリース以来好評をいただき、さらに、リリースにあわせて、新規ユーザーの獲得を目的とした全世界に向けた販売促進キャンペーンも実施いたしました。これにより、サブスクリプション契約の増加や、既存の買い切りモデルユーザーからの新バージョン購入により収益が改善し、より安定的、かつ継続的なサービス提供が可能となりました。

メジャーバージョンアップ施策は、マーケットにおける認知度の向上効果により、売上高及び利用者数の底上げが実現できるため、2025年12月期以降も定期的にも実施する予定です。

世界の11言語に対応している「CLIP STUDIO PAINT」は、約80%が日本語以外の海外に向けた出荷となっており、特に中国本土については、サブスクリプション契約数が順調に増加傾向で推移しAppStoreにおける国別売上高構成比では上位7位となる等、今後も成長が見込まれます。

この他、海外利用ユーザー及びサブスクリプション契約の増加を目的とした、全世界に向けたプロモーション活動を継続的に実施しております。

「CLIP STUDIO PAINT」は、2024年5月には、累計出荷本数が4,000万本を超え、2024年6月には4,161万本(前年同月比34.4%増)となりました。また、「CLIP STUDIO PAINT」サブスクリプションモデルによるSaaSサービス提供のARRは、2024年5月には36.3億円(1か月3億円超)、2024年6月には37.1億円(前年同月比50.8%増)と過去最高となりました。

「CLIP STUDIO PAINT」の2024年6月におけるチャーンレートは5.3%となっております。また、サブスクリプション契約数は2024年6月に100万契約を達成し、同月末には100.1万契約(同19.7%増)となり、イラスト、マンガ、Webtoon、アニメーション分野のクリエイターをサポートするコミュニティ「CLIP STUDIO」のクリエイターの会員数は全世界で892万人(同18.0%増)となり、2024年7月には900万人を達成しました。

当社が注力しているサブスクリプションモデルでのライセンス提供は、廉価で利用開始の敷居を下げる反面、一括でまとまった金額のライセンス料を徴収する買い切りモデルに比べ、短期的には収益効果が低くなります。しかしながら、継続してご利用頂くことで中・長期においては安定した収益が期待できるため、引き続きサブスクリプションモデル契約の増加を目指してまいります。

2024年3月にはワイヤレスの片手入力デバイス「CLIP STUDIO TABMATE 2」の販売を開始いたしました。「CLIP STUDIO TABMATE 2」は、はじめてiPad・iPhoneに対応することで、「CLIP STUDIO PAINT」の操作や機能について、競合アプリに対する競争力の強化を実現しました。「CLIP STUDIO TABMATE 2」はリリース以来好評をいただき、出荷本数は当初見込みを大幅に上回って推移しております。

2024年4月には、「CLIP STUDIO PAINT」が、ワコムのパンタブレット新製品「Wacom Movink 13」にバンドルされ、全世界に提供開始されました。バンドルされた「CLIP STUDIO PAINT」は、無料利用期間後にサブスクリプション契約を行うことで継続利用できる形となっており、サブスクリプション契約の増加が期待され、さらに全世界でのバンドルでは、海外ユーザーの増加も期待できます。

また、「CLIP STUDIO PAINT」が、ドイツ最大級の日本のポップカルチャーイベント「DoKomi」や、「WEBTOON FRANCE」主催の「WEBTOON CONOURS 2024」に協賛し、海外における認知度やユーザー層の拡大に向けた取り組みに注力しております。

以上の結果、売上高は3,538,781千円(前年同期比16.6%増)、営業利益は1,463,873千円(同26.1%増)となりました。

#### <コンテンツ流通ソリューション事業>

コンテンツ流通ソリューション事業は、株式会社&DC3(以下、&DC3)を中心に取り組んでおります。

あらゆるデジタルデータを唯一無二の“モノ”として扱うことでデジタルコンテンツの流通を実現する基盤ソリ

ソリューション「DC3」においては、2024年5月に「DC3」のアップデートを実施し、DC3マイルームの3D機能向上、DC3マスター登録・編集アプリの提供を開始しました。また、「Hive」各種プレイヤーをアップデートし、サイン機能、額装機能の強化により「モノ」としての表現力が向上しました。

さらに、基盤となるプログラム「DC3モジュール」の品質強化、サービス事業者がDC3上で円滑にビジネスを行うための機能群の強化等、ソリューション品質向上に向けた開発投資を継続して行っております。

あわせて、「DC3」ソリューションの利用促進を目的とした営業・プロモーション活動を推進しており、「DC3」ソリューションを利用する予定の複数のサービス事業者との利用契約が進んでおります。虎の穴グループのクリエイターとファンを結ぶ新しい月額制ファンクラブプラットフォーム「クリエイティア」において、DC3コンテンツの販売機能が2024年1月にリリースされております。また、IP事業者の「DC3」ソリューションの活用実績として、2024年4月より放送開始しているアニメ「アストロノオト」、「ささやくように恋を唄う」や、ゲーム「エルシャダイ」、「Shadow Corridor 2 雨ノ四葩」、映画「数分間のエールを」とのコラボレーションを実施しました。今後も複数のIPとの「DC3」ソリューションを活用したコラボレーションを実施予定です。

電子書籍ソリューションにおいては、電子書籍ビューア「CLIP STUDIO READER」を始めとする、電子書籍オーサリングソフトウェア等、様々なデバイス・プラットフォームに対応した電子書籍の制作・流通・再生にまつわるソリューションの提供を行っております。2024年5月には、REVOLVE株式会社のコミック&ノベル配信サービス「コミノベ」で、同年6月には、日経BPの法人向け新型デジタル書籍サービス「日経BP Insight Books」で電子書籍ビューア「CLIP STUDIO READER」が採用されました。

なお、DC3では2024年4月に様々な事業者への営業・プロモーション活動を更に加速させることを目的に、コンテンツ領域に対する深い知見や経験を有する國枝信吾氏を社外取締役として招聘しました。

以上の結果、売上高は521,835千円(前年同期比2.8%増)、営業損失は358,764千円(前年同期は327,144千円の営業損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて133,939千円減少し8,417,584千円となりました。この主な要因は、投資有価証券が694,556千円増加したものの、自社株取得等により現金及び預金が391,983千円、未収入金が254,913千円及びその他流動資産が196,890千円減少したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて577,952千円増加し2,469,360千円となりました。この主な要因は、未払法人税等が292,506千円、前受金が120,974千円及び賞与引当金が127,039千円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて711,892千円減少し5,948,224千円となりました。主な要因は、利益剰余金が554,302千円増加したものの、自社株取得により自己株式が992,232千円増加、有価証券評価差額金が215,419千円減少したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、69.6%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の通期連結業績予想につきましては、2024年2月9日に発表いたしました業績予想から変更はありませんが、下期の事業進捗を注視しつつ修正が必要となった場合はすみやかに開示いたします。



## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,601,095	5,209,111
売掛金	339,623	347,146
製品	3,481	9,883
原材料及び貯蔵品	78,533	73,147
未収入金	526,165	271,252
その他	381,021	184,130
貸倒引当金	△144	△149
流動資産合計	6,929,776	6,094,522
固定資産		
有形固定資産		
建物	185,650	185,650
減価償却累計額	△74,671	△81,641
建物(純額)	110,979	104,009
工具、器具及び備品	270,961	262,892
減価償却累計額	△204,942	△205,702
工具、器具及び備品(純額)	66,019	57,189
有形固定資産合計	176,998	161,198
無形固定資産		
ソフトウェア	893,415	905,111
ソフトウェア仮勘定	68,288	75,020
その他	90,494	87,977
無形固定資産合計	1,052,197	1,068,108
投資その他の資産		
投資有価証券	32,050	726,607
敷金及び保証金	129,364	130,364
繰延税金資産	231,136	236,784
投資その他の資産合計	392,551	1,093,755
固定資産合計	1,621,748	2,323,062
資産合計	8,551,524	8,417,584

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	130,321	135,501
未払金	122,535	122,374
前受金	829,975	950,949
未払費用	87,472	86,041
未払法人税等	35,168	327,675
賞与引当金	61,600	188,639
その他	165,371	153,749
流動負債合計	1,432,444	1,964,929
固定負債		
役員退職慰労引当金	159,027	187,587
退職給付に係る負債	278,983	295,890
その他	20,953	20,953
固定負債合計	458,963	504,430
負債合計	1,891,407	2,469,360
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,076,576	10,000
資本剰余金	2,627,828	5,694,936
利益剰余金	3,977,650	4,531,952
自己株式	△3,186,624	△4,178,857
株主資本合計	6,495,431	6,058,031
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,796	△202,623
その他の包括利益累計額合計	12,796	△202,623
新株予約権	78,880	74,240
非支配株主持分	73,009	18,576
純資産合計	6,660,116	5,948,224
負債純資産合計	8,551,524	8,417,584



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	4,253,723	4,060,617
売上原価	2,197,859	1,801,700
売上総利益	2,055,864	2,258,916
販売費及び一般管理費	1,326,771	1,153,809
営業利益	729,092	1,105,106
営業外収益		
受取利息	497	30
受取配当金	206	37,925
為替差益	33,270	96,564
その他	3	1,958
営業外収益合計	33,977	136,478
営業外費用		
株式交付費	6,259	—
支払手数料	19,386	11,920
その他	1,060	779
営業外費用合計	26,706	12,700
経常利益	736,363	1,228,885
特別利益		
新株予約権戻入益	—	4,640
特別利益合計	—	4,640
特別損失		
関係会社株式譲渡損失引当金繰入額	476,983	—
ソフトウェア評価損	386,742	—
減損損失	—	10,551
投資有価証券評価損	—	303
特別損失合計	863,725	10,854
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△127,362	1,222,670
法人税等	△35,312	333,483
中間純利益又は中間純損失(△)	△92,049	889,187
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	—	△54,432
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△92,049	943,620

## 中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△92,049	889,187
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,352	△215,419
為替換算調整勘定	△8,110	—
その他の包括利益合計	△12,463	△215,419
中間包括利益	△104,512	673,767
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△104,512	728,200
非支配株主に係る中間包括利益	—	△54,432

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

1. 当社は、2024年3月22日開催の取締役会の決議に基づき、自己株式1,202,700株の取得を行っております。また、2024年3月28日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式9,300株の処分を行いました。

この結果、当中間連結会計期間において単元未満株式の買取りによる増加も含めて、自己株式が992,232千円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が4,178,857千円となっております。

2. 当社は、2024年3月28日開催の定時株主総会の決議に基づき、2024年4月17日付で減資の効力が発生し、資本金の額3,066,576千円及び資本準備金の額2,324,076千円をそれぞれ減少し、その他資本剰余金に振り替えております。

この結果、当中間連結会計期間において自己株式の処分による増加も含め、資本金が10,000千円、資本剰余金が5,694,936千円となっております。

(グループ通算制度の適用)

通算子法人の残余財産確定により、通算法人が通算親法人のみとなったことから、2024年1月1日をもってグループ通算制度の適用を取りやめております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	コンテンツ制作 ソリューション 事業	コンテンツ流 通ソリューション 事業	UI/UX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,034,180	507,517	712,025	4,253,723	—	4,253,723
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	26,500	—	26,500	△26,500	—
計	3,034,180	534,017	712,025	4,280,223	△26,500	4,253,723
セグメント利益又は損失(△)	1,160,918	△327,144	△104,681	729,092	—	729,092

(注) セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	コンテンツ制作 ソリューション 事業	コンテンツ流 通ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,538,781	521,835	4,060,617	—	4,060,617
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	0	0	0	—
計	3,538,781	521,835	4,060,617	0	4,060,617
セグメント利益又は損失 (△)	1,463,873	△358,764	1,105,108	△2	1,105,106

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

前連結会計年度において、UI/UX事業を事業譲渡したことに伴い、当連結会計年度中間連結会計期間からUI/UX事業の報告セグメントを廃止しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	コンテンツ制作 ソリューション 事業	コンテンツ流 通ソリューション 事業	計
減損損失	—	10,551	10,551

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。